

都幾川中学校の防災学習で 避難所の運営を体験



生徒全員が準備した非常持出袋



①避難所の受付対応の訓練。検温や消毒、受付簿記入や案内。ペット連れの場合も想定②避難所用テントの組立て。説明書を見て片付けが難しい③段ボールベッドの組立て。慣れると数分で組立て可能に④携帯トイレを水で体験⑤通信訓練。実際の無線で離れた場所から連絡を取り合う⑥避難所教室担当。豊心地はいかが⑦発電機体験⑧おやじの会の協力のもと、側溝を利用してお湯を沸かし昼食を準備した

訓練を終えて

【避難所受付】【携帯トイレ設置・体験】



都幾川中学校に100人以上が避難し、町職員1人で対応をしたと聞き驚きました。受付では名簿の記載や検温、ペットの対応などが必要になるとわかりました。この訓練を通じて、避難所対応の大変さがわかりましたので、経験を活かし支援者側としてみんなと連携して人を助けたいと思いました。
(宮本音也さん・1年)

【避難所用テント組立】【段ボールベッド組立】



段ボールベッドは簡単に組み立てることができましたが、避難所用テントの組立ては少し難しかったです。みんなで協力することで、作業がスムーズに進みました。いざ私が避難したら、高齢者や小さな子どもたちのために作業したいと思います。また、避難したときは自分で判断して行動していきたいです。
(佐藤瑠南さん・2年)

【避難所教室担当】【通信及び発電機担当】



避難所教室では避難者が快適に過ごすためのレイアウトを考えました。また、発電機や移動系の防災無線を使用するのは初めての経験で、いざ災害が発生したら実際に作動させるとしたら大変だと思いました。この訓練の経験で「助けてもらう」から「助ける」立場になっていきたいと考えました。
(岩崎優菜さん・3年)

都幾川中学校で行われた防災学習。この日は、避難所の「運営」を体験し、災害時に取るべき行動を学びました。それは、これから先のときがわ町を担う中学生が、災害時でも率先して共助ができることを期待して実施されたものでした。

かつての避難所での経験

令和元年の台風19号。指定避難所となっていた都幾川中学校の体育館には、当時、100名を超える避難者であふれました。都幾川中学校の生徒の中には、その時に実際に避難した生徒もいましたが、混乱の中、台風が過ぎ去るのを待つしかできませんでした。

避難所の「運営」を学ぶ

都幾川中学校では、当時の教訓を生かすため、町の防災担当と連携し、令和2年11月21日(土)に防災学習の一環として避難所運営訓練を実施しました。これは、実際に避難所を運営するために必要な対応を、全校生徒や教職員が体験することで、防災意識の向上を図るとともに、自らが避難所において主体的に運営の補助ができる行動

を学ぶことを目的としています。今回の訓練内容は次の6つ。

- ・避難所の受付
- ・段ボールベッドの組立て
- ・避難所用テントの組立て
- ・携帯トイレの体験
- ・避難所教室担当
- ・通信及び発電機の体験

これを全校生徒で班分けし、それぞれが主体的に体験しました。

避難者から支援者の立場へ

今回の避難所運営訓練は、避難者に対する支援者として行動ができる実践的態度を身につけることを目標として実施しました。結果、生徒が避難所の運営を自分たちの役割としてとらえ、できることは協力していきたいという気持ちを見せてくれました。避難後の自助・共助を学んだことで、さらなる防災意識の向上を図り、将来の防災リーダーとしての活躍を期待しています。

そして、共助の一員として、町や自主防災組織、地域住民とともに、災害を一緒に乗り越えていける仲間として、力を貸してくれることも期待しています。